

若者は世界を目指す

私が長崎大学に入学した1968年に、五木寛之作詞の「青年は荒野をめざす」という歌がザ・フォーク・クルセダーズによって歌われ、大ヒット曲となりました。いつの時代も、若者にとって未来は荒野なのでしょう。荒野の定義は時代によって変遷し、当時の青年が目指した荒野は大都市であったかもしれませんが、これだけ交通網や情報網の発達した現在、若者にとって未開の場所は世界に違いありません。未開の地を進む若者を想像するだけで頼もしく感じます。やはり世界へ出るべきでしょう。



世界とつながる若者を全面的に支援する長崎大学は、9つすべての学部で海外の大学と連携協定を結び、留学生を迎え、また学生を海外に送り、相互の連携を図っています。毎年約600人の留学生が本学に来ており、約450人が海外に出て行きます。特に熱帯医学研究所では、50年以上前からアフリカのケ

ニアにて医療支援活動を行い、現地で100人規模の研究を進めています。また、熱帯医学・グローバルヘルス研究科は、ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院とのジョイント・ディグリーを中心とした卓越大学院プログラムに、九州の大学で唯一選ばれています。2020年4月には情報データ科学部を開設予定であり、中国やインドから10人ほどの留学生を受け入れ予定です。また、同じくインドと中国から教員が就任予定です。

荒野を目指すものにとって、ただ眺めるだけという

ことはあり得ません。自ら交流の中に踏み出すに決まっています。今後若者が自分の夢を追うのであれば、大学側も国際化に向けて前進し、世界を意識しないと生き残れないと考えています。長崎大学は、海外へ飛躍する多くの若者が夢を実現できるよう、しっかり貢献したいと思います。

河野 茂

CONTENTS

長崎大学広報誌
[チヨホー]
Choho Vol.69

本誌記事を長崎大学関係者が転載する場合は、「長崎大学広報誌Choho vol.〇から」と明記してください。学外の方は、事前に広報戦略本部までご連絡願います。

学長室だより	若者は世界を目指す	1	表紙のはなし のびのびと迫力満点に宙を舞う龍。巧みに操っているのは、長崎大学龍踊部の皆さんです。龍踊と言えば、秋の大祭「長崎くんち」で奉納される出し物の一つですが、龍踊部も地域のイベントなどに引っ張りだこ。稽古に励む中、この日は特別に本番用の龍と衣装を身に付けて華やかな演技を披露してくれました。龍踊部の詳しい活動内容は、今号の「サークルの星」をご覧ください。
特集	世界とつながる長崎大学の卒業生	2	
サークルの星!	龍踊部/E-Rockers/囲碁同好会	15	
Topics	第7回 長崎地域医療セミナー in GOTO 報告	17	
グラバー図譜	ノイズズミ/山口敦子	19	
Information	長崎大学公開講座 クイズ&編集後記	21	

